

## 第 6 回

# まちづくりの将来ビジョン検討委員会会議録

平成16年7月31日

相模原・津久井地域合併協議会

相 模 原 ・ 津 久 井 地 域 合 併 協 議 会  
第 6 回 ま ち づ く り の 将 来 ビ ジ ョ ン 検 討 委 員 会 会 議 録

目 次

○会議次第	1
○出欠席者名簿	2
○開 会	3
○議 題	7
○閉 会	26

相模原・津久井地域合併協議会  
第6回まちづくりの将来ビジョン検討委員会会議録

日時：平成16年7月31日（土）午後2時から

場所：城山町立保健福祉センター 研修室

〈会議次第〉

1 開 会

2 議 題

(1) 新市のまちづくりの柱（目標）について

(2) 新市の将来像（キャッチフレーズ）について

3 閉 会

〈出欠席者名簿〉

○出席（29名）

矢越孝裕委員長、中里州克副委員長、高見沢実委員、牛山久仁彦委員、秋本博寿委員、井口学委員、大竹功委員、大貫弘子委員、小山昌寿委員、佐野誠吉委員、高橋幸一委員、寺崎雄介委員、棟上真理委員、中澤信幸委員、平林清委員、佐藤博夫委員、坪倉貴之委員、野村靖委員、星川康弘委員、山口尚子委員、梅澤勉委員、小嶋重春委員、小嶋理史委員、細野信行委員、守屋浩之委員、大神田光治委員、永井充委員、橋本まどか委員、藤原恵一委員

○欠席（3名）

朝倉綜一郎委員、井上栄作委員、鈴木史比古委員

○事務局職員出席者

事務局長田所直久、事務局次長内田賢治、副主幹柿澤一夫、主査佐藤光男、主査松枝裕二、主査片岡聡一、主任平本迪生

○傍聴者

一般傍聴

開会 午後 2時02分

◎開 会

○矢越委員長 皆さん、こんにちは。お忙しい中、第6回目のまちづくりの将来ビジョン検討委員会にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

かんかん照りになりましたり、雨が降ったりと、非常に嫌な天気ではございますけれども、私どもビジョンの検討委員会は、嫌だと言っておられるわけではございません。皆様方に、資料で、前回の「資料2」という、このようなものがいつの間にかでき上がっていて、送られてきたと思うんですけども、これは、前回、8本の柱に分けたと思います。事務局から後ほどご説明があると思いますけれども、5本の柱に分けさせていただきました。その目標のキャッチフレーズ的なものというのは今日決めていただくわけでありまして、この文章も、あくまでもたたき台でございまして、皆様方で、ここはこうした方がいい、ああした方がいいというようなことをどんどん意見を抽出していただいて、すばらしい文章に変えていただきたいと、このように思っております。

8月4日には、合併協議会の方で中間報告がございまして、ぜひ皆様のお力をお貸しいただきたいと、このように思っております。

なお、藤野町の方でいろいろと動きがあったようでございます。その辺の詳細を田所局長の方からご説明いただけるということでございますので、お願いしたいと思います。

また、議事録署名人なんですけれども、本日は、相模原の大貫弘子さんと城山町の坪倉貴之さんをお願いしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。それでは、今日も一日、よろしく願いいたします。（拍手）

○田所事務局長 週末のお忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。相模原・津久井地域合併協議会事務局の田所でございます。

今、委員長から藤野町の関係についてお話がございました。この間の経過につきまして、私から皆さんにご報告をさせていただきたいと思っております。

実は、藤野町で、7月20日でございまして、藤野町議会の全員協議会という会議が持たれてございます。藤野町は、去る6月27日に住民投票が行われたわけなんですけれども、その結果を受けまして、藤野町も相模原・津久井地域の合併協議に参加をしたいというようなことが議会で方向づけがなされてございます。

その後、私ども合併協議会の事務局と、事務的に藤野町といろいろ検討を行っております。

といたしますのは、途中から加わるということになりますと、非常にほかの協議等に影響等がございます。それから、もちろん、このまちづくりの将来ビジョン検討委員会に非常に大きな影響が出てくる可能性がございます。そういったことから、どういう形で協議が可能なのかというようなことにつきまして、私ども事務局と藤野町の担当の方と今協議を行っている最中でございます。もちろん、相模原、城山、津久井、相模湖のそれぞれの担当の方とも調整をしながら、藤野町の方と今話し合いを行っているというような状況になってございます。まだ明確に、こういう形ができるのではないかとか、これならば大丈夫だとか、そういったところまで、まだ結論めいたものまではいっておりません。ただ、議会の方でもそういう方向が出され、住民投票でもそういった1市4町での合併を目指すというような方向が出されたということがございますので、私ども事務局としては、極力いい方向で協議が進められるような形がとれればということで、今一生懸命いろいろ考えておりました、これから、さらに細かなところについても詰めていきたいというように考えております。

それから、情報によりますと、来週の月曜日、8月2日でございますけれども、藤野町で改めて臨時議会が開かれまして、その中で最終的な結論が出されるというような情報もございます。これらにつきましてどういう結論が出るのかというのは、今までの経過からいいますと、恐らく合併協議に参加をしていきたいというようなことでの方向性が出されるのではないかと考えていますけれども、さらに、これから私ども、1市3町それぞれの合併協議の担当の方々を含めまして、私ども協議会の事務局も含めて、藤野町の担当の方といろいろ話し合いをして、詰めてまいりたいと考えてございます。その中で、このまちづくりの検討委員会には、その経過、あるいはどういうふうな方向になるかというようなことにつきまして、改めてまたご報告はさせていただきたいと考えてございます。

いろいろちょっと悩ましいというか、デリケートな問題もいろいろ絡んでくる部分があるかと思えますけれども、今後、また情報の方は必要に応じて提供させていただきたいと、このように考えておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

私の方からは以上でございます。よろしくどうぞお願いします。

○矢越委員長 ありがとうございます。

それでは、マイクを事務局にお渡ししたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

○事務局 それでは、事務局から、今日の作業の内容の確認、それから事前にお配りしてあります資料の補足説明を簡単にさせていただきます。

前回のこのまちづくりの将来ビジョン検討委員会で、合併後のまちづくりの柱（目標）を

検討するためのまちづくりのメニューを出していただきながら、それを分類しながら8つのグループに分かれていただきました。今日はその作業の続きをするわけですが、まず、まちづくりの柱（目標）、これを考えていただきながら、それを参考にして、新市の将来像、キャッチフレーズを考えていただくというような作業になると思います。

本日決まります新市の将来像、それからまちづくりの柱というものは、8月4日の第4回の合併協議会の方で中間報告をしていただければと思っております。

新市の将来像、それからまちづくりの柱というのは、皆さんが今現在つくっておりますビジョンの一番上に、上位に位置するものというふうに考えられ、今後は、さらに、そのまちづくりの柱を、それを構成する分野といいますか、その分野ごとのまちづくりの方針、それから施策の方向性のようなものを検討して、最終的にビジョンにまとめていただくのかなと思っております。

机の上にお配りしてあります大き目の模造紙の資料とか、グループ討議の実際の進め方につきましては、後ほど建設技術研究所からご説明をいただきたいと思っております。

冒頭、8つのグループに前回分かれたというお話をさせていただきましたが、「グループ分けについて」という資料を最初にお渡ししております。現在、こういうグループに座っていただいておりますが、AからEグループ、5つに分けさせていただいております。特に、DグループとEグループにつきましては、前回、8つに分けた中の複数の分野を固めておりますので、若干人数は多くなっております。このグループ分けの考え方については、まちづくりの柱にするにはどのような枠組みがいいかというようなこと。それから、グループ討議をする際に、実際に、どのくらいの数で、どのくらいの人数でやったらいいかということ。それから、前回の他の先進事例をお配りしましたが、大体、よその事例を見ても3本から6本程度が多いということから、5つのグループに再編成をさせていただいたものです。

ただ、冒頭言いましたように、人数がかなりばらつきがあります。3名のグループから、多いところは9名ぐらいのグループまで、人数にばらつきがありますので、この辺は、できれば人数を調整していただいて、そろえていただいた方がいいかなとも思っております。

それから、事前にお配りした資料の1ですが、これは、前回までの委員会でいただいたご意見ですとか、その後、宿題という形で「まちづくりシート」というものを事務局に出していただきました。それをまとめさせていただいたものでして、一度発送した後に、追加でいただいた意見がございましたので、「訂正版」という形で2回送らせていただいております。ちょっと混乱して申しわけありませんでした。

それから、今日の作業については、この資料の1の方から、皆さんからもらった意見ですので、これを基本に、将来像、それからまちづくりの柱というものを考えていただければと思っております。

それから、資料の2ですが、これは、5つのグループに分かれて5本の柱を立てた場合のイメージです。新市の将来像、それからまちづくりの柱（目標）（案）ということで、今までに皆さんからいただいた意見ですとか、各市町の総合計画などを参考にさせていただきながらつくった事務局の案でございます。今日は、できれば、この資料2を修正するような形で、将来像、それからまちづくりの柱を決めていただければと思っております。

8月4日の任意合併協議会には、この資料2を修正したものを出して、報告をしていただくというようなイメージになると思います。

それから、「まちづくりシート」でもらった意見ですとか、今までの意見については、今日、受付でお配りしたと思います、「各委員から提案された『まちづくりの実施メニュー』まとめ」という13ページにわたる資料にまとめさせております。

それで、まちづくりの柱を検討する際に、若干、事務局のお願いといいますか、要望しておきたいなと思っていることがございまして、まちづくりの柱というのは——目標ですね。これは、その分野の目標を包括的にあらわすということからして、ある特定の事業名に特化したような書き方はしない方がいいのではないかなというふうに思っております。

それからもう1点は、前回、他の先進事例をお配りしたときに見ていただいたと思うんですが、大体「〇〇のまちづくり」とか、「〇〇のまち」、あるいは「〇〇都市」というように語尾をそろえている例が非常に多いと思います。その方がバランスがとれて、語呂がいいのではないかなと思いますので、できれば、その辺もあわせてご検討いただければと思っております。

あと、将来像についても、いろいろ言いたいことを書かなければいけないので、長目になってしまう傾向があるかもしれませんが、できるだけ短く、語呂がいい方がいいのではないかなと思っております。

それから、本日の作業の終了時刻につきましては、4時半から5時の間ぐらいを想定しております。

最後に、傍聴の方をお願いをしておきますが、本日の委員会も、ご覧のようにグループ討議になりますので、傍聴の方から見て、ちょっと聞こえないとか見えないとかというグループがあるかもわかりませんが、グループ討議の妨げにならないように傍聴の方はご協力をお



願いたいと思っておりますので、よろしく願いたいと思います。

以上でございます。



## ◎議 題

### □議題（１） 新市のまちづくりの柱（目標）について

○建設技術研究所（松本） 皆さん、こんにちは。ここから進行させていただきます、建設技術研究所の松本といたします。

前回、8つの木をつくってやってきたんですけども、最初に前回の振り返りをしたいと思います。ちょっとスクリーンの方を注目してください。1分30秒で振り返ります。

前回、最初に、牛山先生のお話から始まりまして、最初に、ジグソーパズルをやりながら、どういうまちができるのかなというようなことをゲームでやっていただいたかと思います。皆さんで協力し合いながら、こういう作業をやっていただいたかなと思っています。先生方も、一緒になってやっていただきました。

その後に、グループで討議をして、まちづくりに必要なものは何ですかということで語り合っていました。ホワイトボードの中に張っていただいて、まとめていくという作業をやってまいりました。それぞれ発表しながら、これを、後ろに大きな模造紙を張りまして、その模造紙に、これも、皆さん方、グループで協力しながら8つの柱ができたというような流れであったかと思います。

最終的にこんなふうにでき上がってきて、模造紙が完成したという絵です。これが最後に完成した絵です。

今、でき上がった模造紙を事務局の作業で整理したものが皆さんのテーブルの上に置いてあるものです。

もう一つ、前回、これが終わった後で、皆さんから「振り返りシート」というのに書いていただきました。参加してよかったこととか、悪かったこととか、そういう話をシートに書いてもらったものですから、これの中身を少し説明させていただいて、今後どういうふうに進めるかということも、少し反省を含めて書いていますので、ご覧いただきたいと思います。

丸として、参加して良かったことというふうに、書いていただきました。いろいろな意見をいただいたんですが、なるべく全部が入るようにまとめてみました。良かったこと。進め

方・方向性が見えてきたというのが1番目にありました。自由に忌憚なく話せたというのがありました。効率よく目標が達せられた。とてもいいことばかりなんですね。会場の設営が良かったとか、メインの柱が決まって良かった。こういうふうに書いていただいて、進行している側も非常にうれしい意見だったと思います。絵がきれいだとかありました。

悪かったことも書いていただいたんですけども、これはできるだけ厳しく書いてくださいというふうにしたら、さすがに厳しい意見もいっぱいいただきまして、一番多かったのが、時間が短くて進行が早過ぎる。これは、決められた皆さんの時間の中でやるものですから、いろいろ欲張ってやったんですけども、なかなか早くて忙しかったという意見だったかなと思います。事前にテーマとか進め方を知らせておいて欲しかったと。唐突過ぎたというようなご意見もいただきました。こういう平等な場で、みんなが意見は等しく発言できるんだけど、深い議論ができないとか、紙をむだにしているとか。確かに、さっき出ましたように紙をいっぱい使っていましたので、そういうようなご意見をいただきました。マイクの音ですね。こういうのも気をつけているようなつもりなんですけれども、時々、耳に良くないというようなこともあったのかなと反省しています。

同時に、今後の進め方への提案ということで、これはダブるところがあるんですけども、事前に進め方を知らせておく。終了時間をあらかじめ教えてと。さっき、柿澤さんの方からお話があったとおり、今日は大体16時30分から17時の間には終わります。それを目指して進めたいと思います。

もっと時間を増やして欲しいとか、あるいは回数をもっと増やしてというようなお話もあったんですが、これも検討する必要があるかなと思っています。

テーマはもっと細かくやった方がいいなど。それから、先生のお話があったので、毎回、先生のお話をお願いしますというようなご意見もありました。今日も、最後に少しお話いただければと思っています。欠席者へのフォローも必要だと。

そういう意見を踏まえて、少し進め方、改善を考えたいんですけども、時間の管理。これはもう私たちにとっても永遠の、永年の、積年の課題ということになってはいますが、説明をなるべく短くして、議論の時間をたくさんとろうと思っています。

テーマとか進め方の予告ということで、今回も事前に宿題をお願いしたりして、今日、こんなことをやりますよということをお知らせしていこうと思っています。

深い議論のため、これは、今のところ、議論が平等に、発言の機会が均等になるようにというふうに考えているんですけども、場面に応じては、そういうプログラムをつくること

も必要かなと思っています。

グループの再構成。これは、最初にお話があったように、議論がしやすいようにグループの再構成をしています。

欠席者。これは、事務局がフォローをさせていただいております。

紙のむだ使いには気をつけますということで、考えたいと思います。

それからあと、マイクの音とか室内の環境ですね。暑過ぎるとか寒過ぎるということがあったら、いつでもご遠慮なく言っていただいて、対応させていただこうと思います。よろしいでしょうか。

説明が長くならないように、早く進めたいと思います。

1つは、さっきグループの人数が少し偏りがあるので、もしできましたら、少ないところに移っていただける方がいらっしゃると、大変進行にとってはありがたいんですけども。CのグループとかBのグループとかは、今3人の方しかいらっしゃらないんですけども、もしこのタイミングで移ってもいいよという方がいらしたら。どうでしょうか。

それぞれのグループのテーマ、よろしいでしょうか。いま一度、テーマだけ説明をさせていただいて、もし移ってもいいよという方がいらしたら、お願いしたいと思います。Aのグループは、交通とか都市基盤のことについて検討していただくグループです。Bのグループは、自然とか環境の保全とかということを討議していただくグループです。今少ないのがBとCですけども、Cのグループは産業とか観光、土地利用ですね。A、B、C、大体そういうことで、Aが4人、B、C、3人ずついらっしゃいますけれども、Aが交通、都市基盤で、Bが都市と環境、Cが産業、観光、土地利用ということをやっているんですけども、どうでしょうか。今、このタイミングで。あっ、行っていただけますか。ありがとうございます。

○永井委員 Cでよろしいですか。

○建設技術研究所（松本） はい。では、産業のチームに、永井さん、お願いします。ほかにもう一方ぐらい行っていただくとありがたいなと思っていますけれども、どうでしょうか。ないでしょうか。ありがとうございます。いいですか。Bが自然と環境のチームですね。自然と環境のチームです。

○橋本委員 では、私が行かせていただきます。

○建設技術研究所（松本） はい、ありがとうございます。では、Bに橋本さんが移っていただきます。

ご協力ありがとうございました。では、ここからワークに入っていきたいと思います。これで進めたいと思います。よろしいですか。

今日は、最初にお話があったように、決めていただかなければいけないことがあります。ゴールは結構はっきりしているんですけども、ここにいくまでの作業は結構大変かなと思っています。何だかんだ言っている間に、大体もう20分ぐらいたってしまったんですけども、またスピーディーに進めたいと思います。皆さん、忙しくない程度にスピーディーにいきたいと思います。

今日のワークの手順を簡単に説明させていただきます。最初に、今日の進め方とゴールというところだけ確認したいと思います。今日やっていきたいことの1番目は、「施策メニューを点検する」と書いていますけれども、これは、最初のお話にありましたように、前回、メニューを出していただいたことについて、もう1回、復習をしていただく、確認をしていただくと。確認をしていただいて、意見があるかどうか、皆さんで議論をしていただきたいと思います。大きな木、さっきの絵の中で、写真の中で、模造紙の中にいろいろ張り込んでいただいたんですけども、それを整理したものが皆さんの今テーブルの上に乗っているものなんですけれども、そういう整理をしたんですけども、それでいいでしょうか、どうでしょうかというのを整理していただく、これが施策メニューを点検するというところです。

2番目、ここからが本題になります。まちづくりの柱を決める。この柱というのはまちづくりの目標でありまして、Aグループから、今Eグループまで、5つのグループでそれぞれのテーマで検討をしていただくんですけども、その柱（目標）というものを決めていただく。これも簡単な言葉でお願いしたいと思います。これも宿題でお願いしていることでもありますので、その宿題で出された案を絞り込むという作業になるかなと思います。

ワークの3です。3つ目は、都市の将来像を決めると。5つの柱があって、その全体をひくくめて、キャッチフレーズという形でまとめていくという作業が3番目です。

今日決めていただきたいことはこの3つでありまして、最後は、この決まったことを確認しようということをして4時半ないし5時までに終わらせたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

作業の一つ一つは、また順次ご説明しますので、その時間の中でお願いしたいと思います。

大きな流れはよろしいでしょうか。失礼しました。目標を決めていただきたいのは、まちづくりの柱と都市の将来像です。

それで、一つ、私たちの見込み違いというのか、ちょっと読みの甘さというのがあります

て、皆さん、もう一度ご協力をいただきたいことが出てきましたので、すみませんが、お願いしたいと思うんですが、まちづくりのキャッチフレーズの部分を宿題でお願いしたところ、皆さん、それぞれ非常にいいアイデアを出していただいたものですから、事前に投票するなんていうことを考えたんですけども、これは全然間違った考えで、皆さん、自分のキャッチフレーズに入れていただいたということなどもあって、なかなか上位幾つというのを選ぶことができませんでした。

それで、もう一度、この皆さんにお配りする資料の1という「修正版」、これはお手元にありますでしょうか。これの中に29個あるんですけども、もう一度、投票していただきたいと思います。そのときに、1人2票でお願いします。1人2つ選んでください。今でなくて、これは途中の休憩の時間に集めたいと思います。投票の仕方は、目の前にポストイット、付箋紙があると思うんですけども、この付箋紙の中に何番と何番ということで、自分の名前は書かなくて結構ですから、何番と何番という番号を書いていただいて、1つの方がいいですかね。集計しやすい。いいですよ。では、1人2つずつ書いてください。

○佐藤委員 1枚ずつ書くんですか。

○建設技術研究所（松本） 1枚に2つで結構です。これは途中の休憩のときに集めますので、そこまでの作業で結構です。29のアイデアを全部グループでやっていくと、時間がかかりますので、できれば、大体、この代表選手を5つぐらい選びたいなと思ったんですけども。

○佐野委員 論議しながら集約していくんでしょう。だから、普通ならば、討議が終わってから、最後に集約するんじゃないかなと思ったんですけども、途中でやることに意味があるのかね。

○建設技術研究所（松本） これは、後の作業を少し説明していなかったんですけども、この作業、ワーク3の作業のところ、もう1回、皆さんでグループで討議していただきます。グループの中で、どれが一番いいかというのを討議していただいた後、一番最後にもう一度投票いたします。

○佐野委員 その後半はグループ討議するんですか。

○建設技術研究所（松本） ええ、グループの中でもう1回討議していただきます。これそのものもいいのか、あるいは少し、またこれを見ながらもっといいのを思いついたとか、そういうのが出てくると思うんですけども、今の段階であらかじめ有力な候補があるかどうかというのを5つぐらい選んでおきたいなと思ったものですから、投票をお願いします。

○佐野委員 それぞれが、かなり想定が似ているわけです。それから、施策を考えながら修正

みたい、そういうことを考える。今ここで作業をしながら、そのこともあわせて、並行して自分なりに考えをまとめるというのは、私はかなり大変な作業だなと。だから、中間でやれるだけの時間的な余裕があるかなということを心配しているんです。

○建設技術研究所（松本） わかりました。そうしたら、どうでしょうか。少し選ぶためにも時間が要るということですね。作業をしながらというのは難しいということですね。

○佐野委員 これだけのものから選ぶのは難しい。2つでしょう。

○建設技術研究所（松本） はい。

○佐野委員 もっと多ければ、また違うんですけれどもね。

○建設技術研究所（松本） 2つに絞ること自体が、時間の中で難しいと。

○佐野委員 かなり悩ましいです。

○建設技術研究所（松本） そうすると、今、どうしましょう、勝手に言ってしまったんですけれども。はい、どうですか。

○大竹委員 2つ選ぶについても、これがいいんだけども、この部分をちょこっと直すともっといいなという場合が出てくると思うんですね。その修正を、選ぶときにそこに書くのかどうかという、その辺はいかがでしょうか。ただ単に番号だけを書くのか、書いた番号の中で、この字句をちょっと直して、こうした方がいいなというようなものがあつた場合。

○建設技術研究所（松本） 今の投票の時点では、もう番号だけで選んでいただいて、最後、もう一度議論していただく時間を持つと思いますので、そのときに修正するとか、追加するとかですね。当然、そのときは、選外といいますか、投票の数は少なかつたけれども、この辺は生かしたいという部分は、十分生かしていただこうと思います。今の時点では、例えば、5と18がいいというようなあれがありましたら、こういうふうに書いて出していただきたいと思うんですけれども。

すみません、さっきご質問があつたんですが、これは修正をしたいとか、少し表現を変えたいということは、それは後で時間をとりますので、そのときに、その番号に入っていない選外のものも十分生かしていくようなことにしたいと思いますので、よろしいでしょうか。

では、進めたいと思います。また、その都度ありましたら、今のようにどんどんご質問いただければと思います。

では最初に、前回の振り返りですね。作業の振り返りと、それから準備作業ということになります。いきなりキャッチフレーズとか柱とかと言わずに、前回こうやってまとめたよということを、施策メニューを点検するということです。最初に、5分ぐらい皆さんに、1人

ずつに差し上げますので、5分の時間の中で、机の上のメニューですね。それから、皆さんのお手元に同じようなものがあると思うんですけども、その中の——これまでのメニューを整理したものなので、いろいろ思いついた考え。これは、具体的にいきますと、メニューの中身、これはこういうところが重要だとか、あるいは、見出しのつけ方がよくないとか、こういうアイデアもあるよということとか、解決方法とか疑問とか質問、あるいはメニューというものを書いていただければと思います。大体5分ぐらい。5分で、大体、私どもで時間が来たからお知らせしますので、今から5分ぐらいで1人でちょっと考えていただいて、この内容について見ていただければと思います。

各グループ分けのテーマです。そこだけで結構です。ほかのところは結構です。まずは5分で、ちょっと自分で、1人1人で考えてみてください。その後で十分議論していただく時間をとろうと思います。

大体読んでいただいて、思いついたことは、この紙の中に、前と同じ要領なんですけれども、1項目1枚を使って書き込んでください。意見なんかがありましたら1項目1枚で書いてください。紙はもうたくさん使っていて結構です。

〔ワーク1 施策メニューを点検する（ひとりで）〕

○建設技術研究所（松本） できましたでしょうか、そろそろ何枚か、ポストイットに書き込みが。グループの作業に入りたいと思います。あと1分ぐらいでグループの作業に入りたいと思いますので、それぞれの意見をポストイットに書いていただけますか。

そろそろ時間なんですけれども、これに書き込んでいただけましたでしょうか。まだまだ要りますか。どうですか、あと1分ぐらい要りますか。まだ時間が必要なところ。では、1分延長。1分ではだめですか。もっと欲しいですか。10分ですか。10分はちょっと厳しいので、3分延長します。これは、書いていただいた後でグループで話し合ってください。あと3分ぐらいで書いていただこうと思います。

そろそろ時間が来ましたので、またグループで討議しながらでも、意見があったらまた進めていただきたいと思います。

この後にグループで作業をしていただきます。そのときに、皆さんのところに、こういうふうに大きくしたものをお配りしてあるんですけども、ここに、関連するご意見があったら、この近くに付箋を1つお張りして、ご意見があったら、ここですねという作業をしながら議論を進めていってください。今日は、これはまだ準備作業と考えています。これから、今日の作業はキャッチフレーズをつくっていくというところへ持っていきますので、大きな

枠として、キャッチフレーズをつくるための準備作業というふうに考えてください。このメニューについては、また次回以降も議論をしていただく時間がありますので、そのつもりでお願いしたいと思います。よろしいですか。こういう作業を、これから15分ぐらいとりますので、各グループでお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

この作業を続けていただいて、議論の中からアイデアがいろいろ出てきたら、そのカードをどんどん加えていってください。そのラベルをどんどん増やしていってください。よろしくお願いします。ここから15分ぐらいです。

〔ワーク1 施策メニューを点検する（グループで）〕

○建設技術研究所（松本） すみません、議論が白熱してきて、まだまだ時間が必要だと思うんですけども、メニューそのものの議論は、また次回に回したいと思っています。まちづくりの柱の部分を決めていきたいと思っています。そのまま結構です。作業を柱の作業に変えていただきたいと思っています。どうですか、あと1分ぐらいで終わりたいと思っていますけれども。あと1分ぐらいで次の作業に行きたいと思っていますので、この作業はこの辺で切って、次に行きたいと思っています。

では、次に行きます。今日のメインの1つです。ちょっとここのEグループの方、お手伝いいいですか。ご協力いいですか。こういう紙がもう1枚用意してあります。それぞれのグループにこういう紙が用意してありまして、これがまちづくりの目標という文章で、前回までの議論のものをもとに、私たちの方でちょっと整理させていただいたものです。今からの作業ですけども、ここのまちづくりの柱、一番上に空欄がありますけれども、ここに言葉を入れてくださいというのが今の作業です。これは、宿題でいただいているものがあるんですけども、宿題で皆さんからいただいた、それぞれのアイデアですね。修正の資料の1に各分野が出ていると思うんですけども、一番うまい言葉を当てはめてください。

これから15分ぐらいの時間を、この中身の文章のチェックと柱の言葉を決めるという作業をしていきたいと思っています。

よろしいですか。ちょっと説明させてください。今、これからまちづくりの目標を決めるという、宿題でいただいたいろいろな意見がありますので、それも含めて、一番上の部分に、このまちづくりの柱（目標）という言葉を入れていきたいと思っています。ここの部分ですね。この部分、入れたいと思いますので、宿題でいただいたアイデアから選ぶか、あるいは、もっといいアイデアが出てきたら、それを使ってここの枠の中を埋めるという作業になります。そのとき、同時に、ここの文章についても、この表現はいいのかどうかということもみんな



で見てください。ここからの作業が、これになります。

冒頭に、事務局からご説明があったんですけども、このキャッチフレーズ、柱の部分は、こういうふうに統一した方がいいのではないかとこのことを上げさせていただきました。「〇〇〇〇をめざす」というキャッチフレーズですね。余り長くならないように、せいぜいこの1行におさまるぐらいのもので書いていただければと思います。これも、皆さんから出させていただいた案を参考にさせていただいて、あるいは、その中から選んでいただいても結構です。よろしいですか。

では、ここから15分ぐらいとります。お願いします。

〔ワーク2 まちづくりの柱（目標）を決める〕

○建設技術研究所（松本） 作業中、すみません。あと10分ぐらいでこの作業をまとめにしたいと思いますので。あと10分ぐらいです。文言を直していただこうと思うんですけども、ぜひまちづくりの柱の部分の議論も進めていただきたいと思います。あと10分ほどです。よろしくをお願いします。

作業中、すみません。作業を、上のテーマのところですね。テーマの目標の文章、ここを決めるところに移っていただきたいと思います。文言の議論もたくさんあると思うんですけども、頭の部分ですね。目標の部分、目標のところを決めていくという作業に移っていただければと思います。

作業中、すみません。作業は進んでいるようですが、一番上の大きな枠の中に最後の案を書くような作業をしていただければと思います。あと5分ぐらいで大体この作業を終わりたいなと思っていますので、最後の詰めの部分で、枠の中に書いていただくような作業へ入っていただきたいと思います。

あと1分ぐらいで時間が来るんですが、まだ時間が必要なところ、手を挙げていただけますか。まだ要るといところ。あと1分ですけども、大丈夫ですか。もう少し、はい。あと1分で大丈夫でしょうか。あと1分ですけども、時間がまだ必要なところ、手を挙げてください。では、3分延長しますね。あと4分ぐらいね。

そろそろ終わりにしたいんですけども、大体入りましたでしょうか。よろしいですか。まだのところ。まだですか。では、まだのところ、少し待ちます。決まったところから、また発表してもらおうと思いますので、それぞれのグループで説明する人を決めておいてください。お願いします。

では、いいですか。Aグループ。書いていますか。では、AとEで終わりですね。順番に

発表してもらおうと思います。時間が余りなくなってしまうので、もうその場で立ってもらって、これをみんなの方に見えるように上げてもらって、決まった一番上の目標のところだけ読み上げてください。いいですか。では、準備ができたところからということで、順番にいきましょうか。

はい、お願いします。では、注目してください。テーマとキャッチフレーズをお願いします。

○藤原委員 4の部門で、教育・文化、医療・福祉、安全・安心のまちづくりという、すごいたくさんあるんですけども、一番広い範囲なので長ったらしくて、「心の豊かさを育み安心して生き活きとした市民生活の実現をめざす」。

追考だとよくわかると思うんですけども、大分苦慮して、ほかに2人も人材を供給したものだから大変だったんですけども、この全体の文章のまとまりは、このたくさんの方の領域をそれなりに含んで、すごくまとまっているなという感じだったんですけども、ちょっとこういう議論をしながら、若干直した方がいいかなというところがあって、それは1行目。

「質の高い教育」というのはちょっと変かなということがあって、「心豊かな教育」にしてみたらどうかとか、あるいは、そうすることによって、医療・福祉の部分を「質の高い医療・福祉」。新市としての質の高い医療・福祉を目指すとか、そういうような若干の文言修正はした方がいいかなというのが我々の結論でございます。（拍手）

○建設技術研究所（松本） ありがとうございます。

次、Bですか。Bは、テーマと目標をお願いします。

○橋本委員 Bは、自然・環境のまちづくりの柱として、「自然の豊かさを日常的に感じるまちをめざす」ということになりました。

文章はすごくまとまっていると思います。ただ、「河川・湖の水質の向上やごみ投棄対策を推進し」というところが、「ごみ投棄」だけがちょっと突発的に具体的に出てしまったので、ここはちょっと消したいなという感じですね。

あと、この中に入っていないんですが、「都市内部でも自然を感じられる都市公園の整備」ということをここに入れたいと思います。

あと、最後のこの「市街地での良好な緑の形成により、うるおいあるまちづくり」なんですけど、「うるおいと風格のある」、ちょっとランクが上に感じられるまちづくりを目指したいということになりました。

以上です。（拍手）

○建設技術研究所（松本） 次は、どうでしょう。Aグループ、よろしいですか。

では、お願いします。Aは、すみませんが、説明していただく方、先にお名前を言っていたかとありがたいんですけども。お願いします。

○守屋委員 守屋です。交通・都市基盤のまちづくりの柱ということで、たくさん付箋があったんですけども、かんかんがくがくの議論でした。それで、基本的な視点としましては、「人、産業、文化、自然」。要は、都市基盤とか交流基盤、交通基盤というのは、あらゆるものを超えた新しい都市の機能を支えるわけですね。支えるものであって、かつ架け橋でなければいけないということで、あえてこういう言葉を入れさせてもらったんですけども、「新しい都市の交流と発展を支える、質の高い交通、都市基盤づくりをめざす」というふうな話が当初まとまったんですが、いやいや、それだけではちょっと足りないということで、「資源を生かした」という言葉をあえて入れました。この「資源」というのは、要は、ただ単に新しいものを整備するとかということではなくて、たくさん、こういった基盤施設というのはもう既にあるわけですね。そこを少し改良するだけでも大幅に変わってくる場所があるわけですから、そういうことも踏まえた中で、ちょっと言葉の語呂は余りうまくないんですけども、何とか、リストラクチャリングというんですか、そういう視点も踏まえながら都市基盤づくりをしていかなければいけないのではないかとということで、「人、自然、産業、文化・・・新しい都市の交流と発展を支える、資源を生かした質の高い交通・都市基盤づくりをめざす」というふうにしました。

ありがとうございました。（拍手）

○建設技術研究所（松本） ありがとうございました。

次、C、続いてお願いします。

○小嶋重春委員 Cグループでは、まちづくりの柱として、産業・観光・土地利用のまちづくりということでやりました。そして、やはりみんなでもって——みんなといっても4人なんですけれども、やはり豊かないいまちをつくるには、それなりの金が必要だと。特に財政が大切であるということで、特に、自然環境との調和、そういうことも考えながら、また、地域の特性を生かして、新しい産業も含めて産業創生を目指すというようなことで、「地域経済を支えるために自然環境と調和し、地域特性を活かした産業創生をめざす」ということになりました。

それで、表現の一部修正なんですけれども、「首都圏近郊や」ではおかしいので、「首都圏近郊で」。「水源地を有する豊かな自然環境の」、「を有する」という言葉を消して、

「自然環境の立地特性を活かした」というふうに改めました。

それからもう一つ、この「市街地の高度利用や山間地での」という表現がありますけれども、「山間地」というくくり方にちょっとやはり、山間地だけではなくて、平らなところも結構多いので、「農林地域での適切かつ効率的な土地利用」というふうに土地利用の面で改めさせていただきました。

以上が、うちの方の検討の内容です。（拍手）

○建設技術研究所（松本） では、最後ですね。Eですね、お願いします。

○高橋委員 一番多い、市民参画と行財政のまちづくりのチームです。余り考えれば考えるほど、市民参画と行財政を一緒にするのが思ったより難しく、Dチームが説明を終わるまで、ずっと訂正が入っているような状況でした。柱としては、「都市内分権を推進し、市民参画によるいきいきとする効率的なまちづくりをめざす」という形で、一応柱を立てさせていただきました。

この中で、「効率的な」という言葉には、下の方にあります、行政とか議会の「市民参加による抜本的な行財政改革を進め」という文章がありますので、それを「効率的な」という言葉で補っております。

そのほかに関しては、読むと長くなってしまいますので……。すみません、この文章にちょっとつけ足しをさせていただきたい文章がありまして、最初に、「市民参画によるまちづくり、行財政改革を進めるためには、都市内分権の推進と地域自治区の設置は不可欠である」という形で文章が始まるようにさせていただきました。

それとあと、細かい表現等々を直させていただいて、あと「住民」と「市民」という言葉がいろいろ入り交じっていたので、全部「市民」に統一させていただきました。

最後に、行財政改革の方は、実はここから2行しかありませんでしたので、ちょっとそこを膨らまさせていただいて、「本来的に市民にとって必要な行政サービスの充実」という言葉にさせていただいたのと、「数値目標のものと行政コストの削減」という言葉を入れさせていただきました。少し膨らまさせていただきました。

以上です。（拍手）

○建設技術研究所（松本） ありがとうございます。

短時間の中ですごくいろいろな議論をしていただいて、きっちりまとめていただきました。どうもご協力、ありがとうございました。

少し休憩をとります。この後は、もう一つ作業があります。お疲れのところ、申しわけあ

りません。10分ほど休憩をとって、4時からまた再開したいと思います。そこからまた次のワークに進みたいと思います。よろしくお願いします。

休憩 午後3時49分

再開 午後4時00分

○建設技術研究所（松本） 戻られましたでしょうか。よろしいですか。では、次に進みたいと思います。よろしいですか。

## □議題（2） 新市の将来像（キャッチフレーズ）について

○建設技術研究所（松本） 大変忙しい目をしていただいて、お疲れだと思うんですが、もう一仕事あります。今日のもう一つのメインです。最後に、新市の将来像というキャッチフレーズをまとめていくという作業がこれから残っています。

訂正させていただきますが、投票すると言ったんですけれども、時間の関係で、やめにします、すみません。さっき、この中から2つ選んでくださいと言ったんですけれども、これはやめにして、もう直接、この29のこれで皆さんで議論して決めていきたいと思います。

これからの作業は、今、5つのグループになっていますけれども、グループによって少し多いとか少ないとかがあるので、もう1回、グループを組み直そうと思うんですけれども、よろしいですか。このままいってしまえという方、いらっしゃいますか。

○委員 多いというのは、ここで議論するのはやはり無理があるので、2つに分けた方がいいのではないかというふうに思います。

○建設技術研究所（松本） そうですか。では、数の均一がとれるようにします。今から、私、A、B、C、Dと申し上げますので、A、B、C、Dを考えてください。

○建設技術研究所（大枝） では、こちらからいきますね。これから4つのグループに分かれていただきますので、皆さんに、A、B、C、Dと番号振りをします。自分がAか、Bか、Cか、覚えておいてください。忘れないでください。よろしいですか。

[グループ分け]

○建設技術研究所（松本） 大丈夫ですか。自分の番号わかりますか。

○建設技術研究所（大枝） Aの方。では、その方はAのテーブルへ。Bの方。Bの方、わかりますか。Bの方はBのテーブルへ。

- 建設技術研究所（松本） 次、Cの方。
- 建設技術研究所（大枝） はい、Cの方。
- 建設技術研究所（松本） Cはそこです。
- 建設技術研究所（大枝） 次、Dの方は、窓側です。
- 建設技術研究所（松本） いいですか。メンバーが変わりました。この後、これから30分ぐらいとります。皆さんに、これも宿題で出させていただきました、「『新市の将来像』のまとめ」ですね。資料の1というのをお持ちでしょうか。資料の1というA3の縦長のもの。ここに29のアイデアがありますけれども、その中から1つ、各グループで1つずつだけなんですけれども、どうしてもだめだなというときは2つの場合もあるかもしれませんけれども、できるだけ1つ選んでください。あるいは、その中で少し表現を変えたいな、もうちょっとこういうふうにしたらいいなという部分があったら、変えていただいても結構です。いいですか。これから、皆さん、全部のグループで相談をしていただいて、1つ選ぶ。あるいは、1つ選んで、選んだものの表現を改良していくという作業です。

今、向こうに模造紙を切ったものを用意しています。これを皆さんにお配りしますので、最終的にその紙に書き込んでください。各グループで決まったアイデアをその紙の中に書き込んでください。よろしいですか。話は単純なんですけれども、時間は結構大変な作業だと思います。大体30分ぐらいとりたいと思いますので、それぞれのグループで決めてください。今まで議論していただいたまちづくりの柱というものも十分頭に置きながら考えていただければと思います。新市の将来像のまとめ、これをお願いしたいと思います。

よろしいですか。何か質問いいですか。大丈夫ですか。では、お願いします。

#### 〔ワーク3 都市の将来像（キャッチフレーズ）を決める〕

- 建設技術研究所（松本） 作業をしながら見ていただければと思います。スクリーンの方に、さっき決めていただいた5つの柱を映していますので、もし参考になれば見ていただければと思います。
- 建設技術研究所（大枝） 後ろの方は、模造紙を壁に張りますね。
- 建設技術研究所（松本） 壁に模造紙も張りますので、それもお覧ください。

作業中、すみません。時間がたつのは早いもので、大体、最初に申し上げた30分がたちそうなんですけれども、もう少し時間が必要と思うんですが、そろそろ模造紙の方に向かって書くような作業に移っていただければと思います。議論がまだまだ時間かかると思うんですけれども、今日のアイデアとして、ひとつまとめの作業に入っていただきたいと思います。

せいぜい5分ぐらいの時間でとっていますので、よろしくお願いします。

すみません。あと2分ほどになりましたので、書いていただく作業に入ってください。もう着々と進んでいると思うんですけども、どうでしょうか。あと2分ほどでこの作業を終わりにしたいと思います。

いいですか。できましたか。では、それぞれのグループから、今度、また説明していただくと思います。いいですか。このボードに張っていききたいと思います。よろしいですか。

では、Aグループから順番に、簡単に、背景とか思い入れですね。思い入れの部分とか背景とかも含めて、でき上がったキャッチフレーズの説明をお願いしたいと思います。Aグループ、お願いします。Aグループの発表です。Aグループ、お願いします。

○小嶋理史委員 Aグループの津久井の小嶋です。かなり議論があったんですが、ほかの候補と共通している部分で、「自然」ですとか「人」とかというところが含んであるもので、短いところでこのようになったわけですけども、この後に新市名という形になると思うんですが、何かほかの都市というかを表現できる部分を入れたいなというのが大分あったんですけども、最終的にはこういった形でまとまりましたので、あとは全体でちょっとご検討いただきたいと思います。

○建設技術研究所（松本） 何か補足があったら。いいですか、Aグループから。いいですか。ぜひ少し、この辺の思い入れのところを。いいですか。

ありがとうございました。Aグループでした。（拍手）

では、次にB、お願いします。

○山口委員 Bグループです。キャッチフレーズの中から、2つずつみんなで投票をしていきました。その中で多かったものを少しずつみんなで工夫して、言葉の語呂合わせと、それから思いをまとめていきました。

2番の方のを少し変えさせていただいたんですが、「森が育む水の力、水が育てるまちの力、まちにいきづく人の力、人がつくる環境交流新都市〇〇〇〇」です。これは、川が流れていくような様子そのまま言葉をつなげていったのと同時に、生活の基盤となるいろいろな環境がうまく循環していくという思いを含ませていただきました。

以上です。（拍手）

○建設技術研究所（松本） ありがとうございました。補足はよろしいですか。いいですか。

では、次にCにいきましょう。お願いします。

○小山委員 C班の小山です。A班と同じような形になると思うんですけども、それぞれの

特色を言葉の中に入れて、「人と自然が共生し、活力と愛があふれる人間都市○○○  
○」ということで、新市名という形になりました。補足があればお願いします。

○佐野委員 ここで言っている「活力」というものは、地域経済を支える経済活動というだけでなくて、市民と市民の力によるパートナーシップによるまちづくりと、そういうようなイメージも入っています。それから、「愛」という表現は、医療だとか福祉だとか、そういうものが充実しているという、そういうイメージです。

以上です。

○建設技術研究所（松本） ありがとうございます。最後、D、お願いします。

○高橋委員 発表者を決めていなかったもので、すみません。Dチームは、ナンバー8。皆さんが出された中の8を基準に考えていたんですが、一応、柱の方を重点的にみんなでもう一度見直しして、その中から委員が好きな言葉を選ばさせていただきました。

「自然と産業」というのは、「自然」は津久井地域を指しておりまして、「産業」の方は、「都市」という言葉にしようか、「産業」にしようか迷ったんですが、最後に「都市」という言葉が出てきますので、そこは、相模原のイメージにある工業を中心とした産業が元気がある都市ということで、「産業」という言葉を入れさせていただきました。自然と産業が調和すれば、必然と、あそこの真ん中のところにある「自然環境の調和」というところにもかかわっておりまして、環境問題も一応考えておるつもりであります。

あと、「人と人がふれ合う」というのは、Cの、さっき、「活力」のところでお話があった部分を押さえておりまして、最後に「分権都市」という言葉を入れさせていただきました。これが今回の合併の目玉になると思っております。

以上です。（拍手）

○建設技術研究所（松本） どうもありがとうございました。

4つ出していただきまして、極めて短い時間の中で大変忙しい思いをさせまして、そこで議論をしていただいて、この4つを出していただきました。これからが大変なんですけれども、4つをどうやって1つにするかという問題があるんですけれども、どこかに共通点だとか、あるいは1つにまとめられるなというようなアイデアがあればまとめていきたいなと思うんですけれども、これをそのままくっつけてしまうと大変長いものになってしまうんですけれども、何かそこら辺でいいアイデアがあればお願いしたいなと思うんですけれども。

はい、どうぞ。



○寺崎委員 今日、始めてから早かったので、この4つ併記まででいいと思うんですよ。これ、みんな、それぞれ4つ見たでしょうから、また宿題化して、また次回、うまいまとめができると思うんですが。ここでまとめてしまうとどこかが落ちてしまうので、4つまででいいのではないかなと私は思います。

○建設技術研究所（松本） 今日、どうしてもまとめなければいけないというのは私だけですかね。1つずつグループで、今日は。何か、皆さんの顔を見てみると、どうも、そっちの方がいいような・・・。

○井口委員 最後にまとめるわけにはいかないんですか。これからいろいろ、柱とか目標なんかを決めるではないですか。それが決まったところで、もう1回、見直していくわけにはいかないんですか。

○建設技術研究所（松本） 最後にね。

○井口委員 一応その4つのイメージを持っていて、ほかのこともやっていって、最後にもう1回、見直ししての方がいいと思うんですけども。

○建設技術研究所（松本） 今、中間段階だから4つにしておいて、いろいろまた議論を深めていくと。この4つは保ちながら、また最後にまとめたらどうかという。何か、皆さん、これで異存がなさそうなんですけれども、ここでまとめなかったら、どうしましょう。私の責務としては、何とかまとめなければいけないという基本があったんですけども。

○佐野委員 それは、ちょっといいですか。あなたがではなくて、例えば、合併協議会との関係で、事務局としても、総体のスケジュールとか、調整はどうかという判断の中で、やはりすぐにこれをまとめるなんていうことは不可能ですよ。少しお互いに持ち帰って、いろいろ論議したり、またグループでこれからも論議して、最後にまとめて出す。

○建設技術研究所（松本） ということで、事務局の方に振ってもよろしいですか。すみません。

○内田事務局次長 事務局でございます。皆様のご意見はごもっともでございますので、今日のところはこういう段階ということで、また皆様、議論を深めていただいて、一つにまとめていただけたらと考えております。

ただ、皆様、大変お忙しいとは思いますが、このまちづくり検討委員会の場だけではなくて、大変恐縮ですが、ご自宅でもいろいろお考えいただけると大変ありがたいと思っております。

8月4日の協議会のときには、今のまちづくり検討委員会の状況を報告させていただくと

ということになっておりますので、これは委員長さんの判断ですけれども、委員長さんから、今のところ、こういうふうな案が出されていますよと。それから、今日、説明文につきましてもいろいろ手を入れていただいておりますけれども、今の段階ではこういうふうになっておりますというのを協議会の皆さんにもご報告する必要があると思いますので、その辺はご了解いただきたいと思います。

以上でございます。

○建設技術研究所（松本） よろしいですか。という話で、4つの案、出していただいた案、またじっくり、またもう少し時間をかけてじっくり見直そうということにさせていただきました。今日は、本当に短い時間の中でいろいろなことをしていただきまして、ご協力ありがとうございました。

委員長の方にお返ししてよろしいでしょうか。

今日決まったことの確認をしたいと思います。委員長の方から今確認したいと思いますので。大丈夫ですか、だめですか。では、このキャッチフレーズは、柱だけいきましょう。

○矢越委員長 皆さん、長時間にわたりお疲れさまでございました。柱に関しましては、皆様のご希望という箇所、移動していただいた方もいらっしゃったと思うんですが、ちょっとそちらまで見えないと思いますが、こちら、お配りした資料があるかと思います。これで、とりあえず今日のところは決定であります。ただ、これが最終的な決定ではございませんで、8月4日の合併協の方では、柱の方はこれで今のところまとまっていますという報告をさせていただきます。ただ、ここの下にも、また細分化されたものもございますし、これに手直ししていかなければいけないところがあるかと思います。また、これは議論の場を設けたいと思います。

それと、最終的なキャッチフレーズ的なものなんですが、この中から1つに絞らなければいけない。もしくは、手直しして1つに絞らなければいけないという段階に進んでいくわけなんですけれども、今日のところは、一応この4つの案で進んでいますというところでご報告をさせていただきたいと思います。その辺はご了解いただけますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○矢越委員長 よろしくお願いたします。ありがとうございました。（拍手）

それでは、総評ということで、高見沢先生と牛山先生、一言ずつお願いたします。

○高見沢委員 今日は、タクシーで橋本駅からここへ来たんですけれども、運転手さんにいつも聞くんですけれども、合併の仕事へ行くんですけれども、合併は何でしなければいけない

のか。多分、まだ多くの市民、町民の方は、そういう感覚でないかと思うんですね。それで、今日は、とにかく仕事をしなければいけないということで、いろいろなことができてきたんですが、多分、これを話したときに、どうして合併しなければいけないのというふうにはまだ答えていないというか、与えられた枠の中で議論をするところだったということで、大変皆さん、ご苦労さんでしたけれども、やはり今後は、合併すると、いいことばかりではありませんけれども、こんなふうになるぞと。悪いこともこういうふう克服するぞというようなことが盛られていないと、どうしても市民の方は、ああ、合併するといいなというふうに思わないのではないかなという気が改めていたしました。

そういう意味で、今後の課題ということですが、例えば、相模川とか、何か他の都市にない特徴はないか。自立分権とか環境交流とか、若干そのようなことはうたわれているとは思いますが、まだまだ何か、あえて外から見て、皆さん、理解できるかどうかというところまで達していない感じもするので、また今後、頑張っていきたいなというふうに思います。

それから、いつも話していることなんですが、交流ということで、今回、例えば、この本文の一番重要な書き出しの文言のところは触れる機会がなかったんですね。ここに書いてあることは、かなり、神奈川県行政から見たときに、こういう位置であるというような説明にとどまっているのではないかなと。むしろ、この地域というのは、山梨の方というか、甲信の方からの出口だとか、あるいは北関東との交流の接点だとか、いろいろな意味で接点だと思うんですね。そういった大きなビジョンというか、そこに位置しているんだということも何か含められないかなという気がいたします。

それから、分権都市ということとも関連すると思うんですが、人口は確かに大きいんだけど、何か一点集中型の都市ではないぞと。地域内は分権しているし、ある意味、いろいろな顔を持った地域の連合体というか、そういうようなイメージがあるぞと。そういう意味で、例えば、八王子とか町田市、あるいは横浜のような何か一点集中の都市とは違って、何というんですかね、そういう分権とか連合とか、あるいは、どっちかという住宅都市というか、余りばりばりとビジネスでというよりも、皆さんが平和に地域の中で暮らしているというようなイメージがあるといったような、ほかの地域と比べたときに、こんなふう違うんだぞということをより強調しながら、今後、さらに展開していったらいいかなというふうに思いました。

以上です。（拍手）

○牛山委員 すみません、どうも遅れて参りまして。

お話を伺っております、これからまだまだ詰めていかななくてはいけないところがたくさんあるんだと思うんですけれども、やはり皆さんの中で、津久井郡ですか、3町の方にある自然、環境をどうやって守るのかということと、それから、相模原市の方で産業とか工場とかいう部分とどうやって調和させていくのかというところが、皆さんにとって非常に大きな課題だということが、皆さんのこのお話の中から柱として出てきたのではないかと。それを、今、高見沢先生がおっしゃったように、どうやって新しい新市の、それに対する解決策とか方向性を出していくのかというところがこれからなのかなということと、もう一つは、そういう生活レベルの問題に加えて、1つには、この新市の行政というものがどういうふうになっていくのかということで、参加の問題とか、それから行財政改革の問題というところが出てきているのかなというふうに思います。

ちょっと今日遅れて参りましたのは、私は相模原に住んでいるんですけれども、隣の大和市の自治基本条例が大詰めでございます、9月提出を目指して、最後の、これを乗り越えられるか乗り越えられないかというところだったものですから、申しわけなかったんですが、やはりこれから自治体間競争の時代ということで、例えば、隣でそういう自治体が行っている、また別なところでは何をやっている。そうすると、やはりこの新市、これはもう県央では本当に一番大きな、もちろん、これから中核になるような都市になっていくわけですから、その中で、今出されたことにいろいろなメニューがぶら下がって、この合併——合併も、全国にはいろいろな合併がありますけれども、その中で、本当にこの合併は意味のあるいい合併なんだと言えるかどうかは、前にも言いましたが、このビジョンにかかっていると思いますので、ぜひまたこれから議論をさせていただきたいと思います。（拍手）

○矢越委員長 ありがとうございます。



## ◎閉 会

○矢越委員長 それでは、事務局から何かご連絡ございますか。

○事務局 どうも、大変長時間にわたり、お疲れさまでございました。

次回の日程だけ事務連絡させていただきます。

次回、8月21日土曜日、相模湖交流センターで午後3時から行わせていただきます。

それから、8月4日の合併協議会へ出す資料ですが、先ほどまちづくりの柱と説明文、今、

後ろに張ってあるものですが、先ほど見させていただきまして、ちょっと読み取れないといえますか、明らかに修正すべきところは修正させていただいて出させていただきますが、現時点での報告ということでさせていただきます、また皆さんに1回お戻しします。それで、また見ていただきまして、再度確認をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

以上です。

○建設技術研究所（松本） どうもありがとうございました。いつも、最後のお願いですけれども、「振り返りシート」というものをまたお配りしますので、お手数ですけれども、最後に書いて帰っていただければと思います。いつもと同じように、良かったこと、悪かったこと、提案と質問ということで、できるだけ皆さんの意見を次の会議に反映させていきたいと思ひます。できるだけ、それでいい会議にしていきたいと思ひますので、ぜひご協力をお願いします。前も言いましたけれども、悪いところをどんどん書いていただいて、少しでもいい場にしていきたいと思ひますので、よろしくお願いたします。

○矢越委員長 それでは、書き終えた方から順次お帰りいただいて結構です。

本日は、本当に誠にありがとうございました。お疲れさまでございました。

閉会 午後5時02分

相模原・津久井地域合併協議会会議運営規程第8条第3項の規定により署名する。

平成16年9月5日

会議録署名人 大貫 弘子

会議録署名人 坪倉 貴之